

# けやき会通信

## 感染症と糖尿病

臨床検査科 宮下三江子

糖尿病の方は感染症にかかりやすく、かかると治りにくいと言われて  
います。

そもそも「感染症」とは？（インターネット ウィキペディアより）  
細菌、ウイルス、真菌（カビ）、寄生虫や異常プリオンによる病原体の感  
染による宿主に生じる病気の総称とされています。（宿主とは人間のこと  
とお考えください）

このところのコロナ対策でマスク、手洗い、ソーシャルディスタンス  
と病原体を寄せ付けない対策を強られる中、そろそろ皆様疲れている  
頃ではないでしょうか？

病原体が目に見えていれば避けようもありますが、目に見えないものから身体を守るのは至難の業です。  
今回11月19日（木）榊会のミニレクチャーでは、細菌検査のスペシャリストの佐野和三さんに、そ  
の目に見えないものの実態を楽しく詳しくレクチャーしていただきましょう。

細菌やウイルス、カビにもいろいろな種類があります。インフルエンザやコロナウイルスが喉や肺に入  
り込んで呼吸器症状をおこすことやノロウイルスが腸に入り込んで下痢や吐き気をおこすことは皆様も  
ご存知のことと思います。

このように細菌やウイルスの種類によって悪さをする場所も症状も違います。

人にも得意分野があるように、細菌やウイルスにも得意分野があると考ええると面白いですね。

得意分野があるということは苦手な分野もあるということです。細菌やウイルスの苦手な消毒液の種類  
や湿度、温度などの環境を整えることが重要です。

また9月号の「緑のひろば」で佐野さんがおっしゃっているように私達は「常在細菌」と言って生ま  
れたときから誰もが持っている細菌たちとバランスを取りながら共存しているということも覚えておき  
たいところです。全ての細菌が敵ではありません。必要な菌もいるのです。

感染症の原因となる目に見えないもの（細菌やウイルス、真菌）の特徴を知って自らを守る対策を学  
びましょう。

今回のミニレクチャー、私自身も同じ臨床検査技師でありながら目に見えない細菌の世界に魅せられた  
佐野さんのお話を楽しみにしております。

